

(仮称) 地域の拠点づくり戦略の基本的考え方

1 趣旨

- 人口減少社会にあつて、都市の活力を維持していくためには、その影響が懸念される地域こそが魅力を高め、にぎわいを創出していく必要がある。そのため、各地域が主体となって歴史文化資源や自然、そして遊休財産などを活用して、新たな価値を生み出す「地域の拠点づくり」を進めていく。
- 今後、「地域の拠点づくり」についてスピード感を持って進めていくため、それぞれの「地域の拠点づくり」がめざす方向性やその実現に向けた具体的な内容を盛り込んだ「(仮称) 地域の拠点づくり戦略」(以下「戦略」という。)を策定する。
- 戦略は、地域との対話などを通じて、未来の担い手であるこどもや若者の希望も反映したものとする。

【参考】地方創生 2.0 について

- ・ 「地方創生 2.0」は、官民が連携して地域の拠点をつくり、地域の持つ潜在力を最大限引き出し、ハードだけではないソフトの魅力が新たな人の流れを生み出す。新技術を徹底的に活用し、一極集中を是正し、多極分散型の多様な経済社会を構築していくものです。

出典：第 217 回国会 石破内閣総理大臣施政方針演説

2 各地域の現状

①神辺エリア

◆現状

- 神辺駅東側は、城下町・宿場町の面影が色濃く残り、県内に 2 つしかない特別史跡「廉塾ならびに菅茶山旧宅」や県重要文化財「神辺本陣」を始め市内唯一の酒蔵など文化資源があり、歴史文化を生かした地域主体の取組が数多く行われている。また、学校法人福山大学（福山大学・福山平成大学）は、江戸期の古民家を再生した神辺駅前サテライトキャンパス「神な備-旧松本家住宅-」を 2025 年（令和 7 年）3 月にプレオープンした。
- 神辺駅西側は、2018 年度（平成 30 年度）に決定された「川南地区まちづくり新ビジョン」に基づき、道路・公園などの社会基盤整備が進んでいる。
- 2024 年度（令和 6 年度）には、官民で連携した議論が行われ「かんなべにぎわいビジョン 2024」が地域主体で作成された。
 - ・神辺駅周辺のにぎわい創出協議会（2024 年 7 月 5 日、11 月 28 日、2025 年 2 月 27 日 開催）
 - ・かんなべ未来会議（2024 年 9 月 8 日、10 月 6 日、12 月 15 日 開催）
- 神辺町の人口は、2024 年（令和 6 年）12 月末で、2012 年（平成 24 年）12 月末から 2,878 人増加の 46,366 人となっている。

◆地域の動き

【行政の取組】

- ・ 川南土地区画整理事業（1975～2028）
- ・ 神辺駅西口広場整備（2023～2026）
- ・ （仮称）川南公園整備（2025～2026）

- ・ 廉塾の保存整備（2020～2032） など

【地域の取組】

- ・ かなべストリートフェスティバル（2023～）
- ・ 神辺みんなの公園にちようマルシェ（2025）
- ・ 神な備-旧松本家住宅-（2025～）
- ・ 地域の小・中・高生による神辺本陣「動く江戸空間」（2022～）
- ・ 廉塾まつり（2023～）
- ・ 神辺遺産（2023～） など

②松永エリア

◆現状

- 松永駅北側は、空き店舗が増加し、いわゆるシャッター街化が進んでおり、アーケードの老朽化も問題となっている。
- 福山大学の学生の多くが松永駅を利用し通学している。また、福山大学は地域活性化の活動拠点「M亭」を松永駅北側に設置している。
- 松永駅南側は、松永はきもの資料館（あしあとスクエア）、松永健康スポーツセンター、クリークなどの公共施設が多く、また松永湾沿いには商業施設が集中して出店している。
- 地域活性化や地域課題の解決に取り組む市民活動団体が複数設立されるとともに、松永駅北側でのハロウィンイベントやアーケードの撤去など地域主体の取組が生まれ始め、まちづくりの機運が高まっている。
- 2024 年度（令和 6 年度）には、官民連携での議論が行われ松永駅周辺のにぎわい再生に当たり共通認識となるビジョンを策定した。
 - ・松永駅周辺活性化協議会（2024 年 8 月 8 日、11 月 1 日、2025 年 2 月 12 日、3 月 17 日 開催）
 - ・松永未来会議（2024 年 9 月 30 日、10 月 13 日、11 月 18 日、2025 年 1 月 18 日、3 月 26 日 開催）
- 松永エリアの人口は、2024 年（令和 6 年）12 月末で、2012 年（平成 24 年）12 月末から 1,472 人減少の 38,135 人となっている。

注）松永エリア…神村、本郷、松永、柳津、金江、藤江、遺芳丘小学校区

◆地域の動き

【行政の取組】

- ・ 松永駅南口広場の整備（2022～）
- ・ 松永駅今津幹線の開通（2024）
- ・ 今津高西線の整備（2025～） など

【地域の取組】

- ・ 松永駅北口の老朽化したアーケードの撤去（2024～）
- ・ 福山大学 地域活性化の活動拠点「M亭」（2013～）
- ・ まつながハロウィン（2023～）
- ・ フレンドリーピックまつながカーブデュー（2010～）
- ・ せせらぎイルミ（2024～） など

③新市エリア

◆現状

- 新市町には、備後一宮吉備津神社や素盞鳴神社、古墳など多数の文化財が存在し、

祇園祭（けんか神輿）など祭りが盛んな地域である。

- 備後絰の発祥の地であり、デニム生地製造やユニフォーム製造などを行う企業の本社が立地している。菊やアスパラガスなどの産地でもある。
- 藤尾の滝、ホタル、芦田川、神谷川など自然環境に恵まれている。
- 2024 年（令和 6 年）4 月時点の自治会加入率は 64.1%で、市全域の 55.9%と比較して高い水準にある。
- 新市町の人口は、2024 年（令和 6 年）12 月末で、2012 年（平成 24 年）12 月末から 3,119 人減少の 18,309 人となっている。

◆地域の動き

【行政の取組】

- ・ 吉備津神社本殿の国宝化に向けた取組（2025～）
- ・ 常金丸小学校と常金丸交流館の複合施設整備（2024～供用開始） など

【地域の取組】

- ・ いっきゅうマルシェ（2018～）
- ・ けんか神輿の展示（上戸手駅前ほか）
- ・ フォトコンテスト（新市駅駅舎）
- ・ つねかねまるしえ（2024～）
- ・ にじいろまつり（2024～）
- ・ 新市地区におけるかわまちづくり意見交換会（2025～） など

④沼隈エリア

◆現状

- 旬の野菜や魚介類などが販売され地域に親しまれている道の駅アリストぬまくまは、2029 年（令和 11 年）にリニューアルを予定している。
- 豊かな自然環境を生かした県内屈指のぶどうの産地である。
- 平家ゆかりの地である「平家谷」や国の重要文化財に指定されている「阿伏兎観音」など文化観光資源がある。
- 2022 年度（令和 4 年度）に、義務教育学校である想青学園及びイエナプラン教育校である常石ともに学園が開校するなど、教育に特色があるエリアとなっている。
- 旧沼隈町時代に始まった「地域づくり事業」は、いまでも「一荷合力（いっかこうろく）」の精神のもと、住民の主体的な活動が継続している。（1983～）
- 2025 年（令和 7 年）3 月 30 日に鞆未来トンネルが開通し、交通量の増加などヒトとモノの流れが変わることが見込まれる。
- 沼隈町の人口は、2024 年（令和 6 年）12 月末で、2012 年（平成 24 年）12 月末から 2,535 人減少の 9,667 人となっている。

◆地域の動き

【行政の取組】

- ・ 道の駅アリストぬまくまの再整備（2024～）
- ・ 鞆未来トンネルの開通（2025）
- ・ 鞆の浦しおまち海道サイクリングロードの利用促進
- ・ 陸の道構想の推進 など

【地域の取組】

- ・ 平家谷おばちゃんガイド

- 阿伏兎花火大会
- 沼隈神楽団（2024～）
- 唄声ひびき祭り（2024～）
- 地域食堂「ともにみらいソウゾウ室」（2024～）
- 地域情報発信・移住者含む多世代交流イベント開催「つねいし日和」（2020～）
など

⑤内海エリア

◆現状

- 主な産業は漁業で、特にカキやノリの養殖が盛んに行われている。
- 海水浴場などの観光名所も多く、バーベキュー、グランピング、フィッシングなどレジャーを楽しむ方も多い。
- 豊かな自然や漁業体験を生かし、体験型修学旅行向けの民泊事業にも力を入れている。
- 温暖化などの自然環境の変化により漁獲量が減少している。
- 学校再編により内海町内の小中学校が閉校となり、こどもたちは想青学園や常石ともに学園にスクールバスなどで通っている。
- 内海町の人口は、2024年（令和6年）12月末で、2012年（平成24年）12月末から752人減少の2,091人となっている。

◆地域の動き

【行政の取組】

- 備後フィッシュフェス（ブランド化の推進）（2016～）
- 海洋環境の改善
 - ・藻場礁の設置（2017～）
 - ・海底耕うん（2022～（かき殻散布は2024～））
 - ・ブルーカーボンに向けた事業詳細調査（2025）
 - ・ミズクラゲ駆除対策（2024～）
 - ・漁場保全緊急対策（アイゴ対策）（2025～）
- 講演会・パネルディスカッション「島の未来を語ろう」（2025）
- 閉校した学校施設の民間事業者による利活用
- 海の道構想の推進 など

【地域の取組】

- UTSUMI FISHERMANS FEST（2019～）
- 漁師の浜売り（2014～）
- 民泊推進事業（福山まるごと体験推進協議会）（2014～）
- 内海町の将来を考える会
- 港の編集室
- 備後マルシェ（2024～）
- 内海町走ろう会駅伝大会
- やまわり公園草刈りクラブ
- うつみ浜辺のマルシェ など

3 戦略策定の視点

- 「地域の拠点づくり」は、地域が主役となって進めるものである。
- 人口減少社会の影響が懸念される旧合併地域を中心に、「地域の拠点づくり」に取り組む。
- 戦略は「地域の拠点づくり」に取り組む地域ごとにまとめる。
- 車座トークでの意見やにぎわい創出に主体的に取り組む地域の協議会（神辺駅・松永駅周辺における協議会など）と行政の双方向の意見交換により、取り組むべき地域の拠点について意見がまとまった地域から、地域・民間事業者・行政などの役割分担を含め、「誰が」「いつ・どうやって」「どういう状態（めざす姿）」にしていけるかを定め、戦略に反映する。
- めざす姿としては、例えば、「地域への誇りを高める」「地域課題の解決」「関係人口の創出」「地域の稼ぐ力を高める」などに表れる地域の活性化が考えられる。
- めざす姿の実現に向け、「地域の拠点づくり」の重要なポイントは次の3つである。

① 地域資源の活用（既存資源の「再解釈」による新たな利活用）

地域の空き家、祭り、自然環境、歴史的建造物など、「既に存在していた資源」に改めて価値を見出し、新たな文脈や目的に転換して利活用することが求められる。例えば、担い手不足が課題である祭りなどの伝統行事を、都市部の若者やインバウンドを巻き込む体験型プログラムに転換する、空き家をコワーキングスペースや宿泊施設といった滞在拠点に再編するなど、地域資源の「再解釈」が重要である。

② 推進体制の確保（共通認識を持つまでのプロセス）

「地域の拠点づくり」を官民が一体となって継続して取り組むことができる体制が求められる。そのためには、地域、民間事業者、行政などの多様な主体が対話を重ねる中で信頼関係を構築し、めざす姿や役割分担などの共通認識を持つまでのプロセスが重要となる。また、地域外の人材の関与を柔軟に受け入れる体制づくりや、民間主導で継続運営できる法人の設立なども有効と考えられる。

【参考】

先行して取組が進んでいる神辺・松永では、地域が主体となって神辺駅周辺のにぎわい創出協議会や未来会議、松永駅周辺活性化協議会や未来会議を立ち上げ、官民で話し合い、ビジョンを策定した（2024年度）。

③ 持続性の確保（収益モデルの確立と次世代への引継ぎに向けた仕組みづくり）

補助金に依存した一過性の取組で終わらせないためには、自走可能な収益モデルの確立が必要である。例えば、提供するサービスの有料化、空き家を活用した事業収入（宿泊、物販、ワークショップ等）などが考えられるが、事業を組み合わせることで実施することによる収益の複線化も重要となる。

また、長期的視点では、取組を次世代へ引き継ぐことが必要となる。関係人口と呼ばれる地域外の人材を増やすことや、取組の企画段階から次世代の担い手となる若者を巻き込むといったアプローチが必要となる。

○ 「地域の拠点づくり」は、次の関連計画を踏まえ、より効果的なものとしていく。

- ・ 福山みらい創造ビジョン
- ・ 福山市地域戦略
- ・ 福山市合併建設計画
- ・ 福山市観光振興基本戦略
- ・ 福山市文化財保存活用地域計画
- ・ 福山市農林水産振興ビジョン
- ・ 福山市立地適正化計画
- ・ 福山市都市マスタープラン

※新たに策定・更新を予定している計画については、策定・更新に向けた検討内容を踏まえる。

○ SDGs の理念、デジタル技術の活用、若者・女性の視点、ウェルビーイング向上の観点など現在の社会問題や将来起こりうる社会的な潮流を踏まえる。

以上の視点を持って、2025 年度（令和 7 年度）にまちづくりに関わる地域、民間事業者、行政などの多様な主体が継続的に議論を行い、戦略を策定する。

4 「地域の拠点づくり」の今後の進め方

- 各地域で取り組む「地域の拠点づくり」は、地域のまちづくりへの考えや車座トークでの意見を踏まえ、各地域で話し合いを重ねながら、進めていく。
- 地域との意見交換を行うとともに、外部有識者の知見を反映させ、共通認識を持ちながら、めざす姿や具体的な取組、役割分担などについて定め、戦略において取りまとめる。

